

(1) 授業実践 小学校 6 年生「きまりを守るとは」

1 主題名 きまりを守るとは【C 規則の尊重】

2 教材名 ここを走れば（出典「光村図書」6年）

3 教材のあらすじ

「ぼく」は離れた所に住む祖父が倒れたという知らせを受け、父の車に乗り、早く会いたいという一心で急いで祖父の元に向かう。しかしながら、高速道路では事故があったらしく、20キロメートルにわたって渋滞しているという情報が入る。そのとき、左側の路側帯を走っていく車が目に入る。自分たちも急いでいるから路側帯を走れないのかという気持ちを父に伝えるが、父は走ろうとはしない。結局、病院についたのは予定より遅れ、祖父は既に亡くなっていた。

4 ねらい

父の行動からきまりの意義について考え、周りの人のためや自分のためにきまりを守って生活していこうとする心情を育てる。

5 展開

段階	学習活動 ◆主な手立て	主な発問(○) 児童の発言(・) 補助発問(●)						
自己を見つめる	<p>1 身の回りのきまりについて考える。</p> <p>◆「心の学び記録」の結果を示し、全体的な傾向を確かめた。(電子黒板)</p> <p>◆めあてを板書した。</p>	<p>●みんなの身の回りにはどんなものがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分達だけでカラオケやゲームセンターに行かない。 ・自転車に乗るときはヘルメットをかぶる。 ・廊下を走らない。 <p>○みんなは、これらのきまりをきちんと守っていますか。4月に書いた「心の学び記録」を見てみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">よくできている</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">64%</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">だいたいできている</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">28%</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">あまりできていない</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">8%</td> </tr> </table> </div> <p>●守ることができない理由を見てどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちは分かる。 ・自分にもこんなことがある。 	よくできている	64%	だいたいできている	28%	あまりできていない	8%
	よくできている	64%						
だいたいできている	28%							
あまりできていない	8%							
自己の考えを広げ、深める	<p>2 「ここを走れば」を聞き、話し合う。</p> <p>◆「ここを走れば」の教材を電子黒板や挿絵で提示しながら読み聞かせ、問題を把握させた。</p> <p>【書く活動①】</p> <p>◆ワークシートと同じ「心のものさし」を黒板に示し、ネームプレートを貼ることで全体的な傾向を確かめさせた。</p>	<p>●この話の中で問題になっていることはどんなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいちゃんに会えなかったこと。 ・路側帯を走れば、おじいちゃんに生きて会えたかもしれないこと。 <p>○あなたは、路側帯を走ればよかったと思いますか。走らなくてよかったと思いますか。その理由も書きましょう。</p> <p>[走ればよかった]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいちゃんも会いたがっていたと思う。 ・死ぬ前に会えたかもしれない。 ・緊急だから仕方ない。 <p>[走らなくてよかった]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりは守らないといけない。 ・他の人に迷惑を掛ける。 ・けが人を助けられない。 						

自分の考えを広げ、深める

しづからの自分を考える

【話し合い】

- ◆ペア又はグループで交流し、ワークシートに友達の考えについてメモを取らせた。
- ◆ネームプレートの傾向を基に児童に問い返ししながら、全体で考えを深めさせた。



3 きまりの意義とこれからの自分について考える。

【書く活動②】

- ◆「心の種」を互いに読みながら交換させた。
- 4 ある母親のメッセージを黙読する。
- ◆ある母親からの我が子に対するメッセージをスライドショーで提示し、視聴させることで、余韻を残して授業を閉じた。

- 隣の友達の意見を聞いてみましょう。
- 心のものさしを見て、自分とは違う場所に貼っている友達と意見を交流してメモを取りましょう。
- 友達と話してみてネームプレートの位置を変えたい人は色を変えて貼り換えてください。
- 全体で意見を交流します。まず、友達との意見交流で自分の考えが少し変わった人から聞いてみます。
 - ・最初は、おじいちゃんに会うために「走った方がよかった」と考えていましたが、～さんの「けが人を助けられない」という意見を聞いて、「走らなくてよかった」という考えに変わりました。
- この意見を聞いて、「走った方がよかった」という人はどう思いますか。
 - ・けが人を助けることも大事だけど、自分のおじいちゃんの命が大事だと思う。
- この意見を聞いて、みんなはどう思いますか。
 - ・やっぱり自分の家族の命が大事。
 - ・事故に遭った人が命を落すことも考えられる。
- 「走ればよかった」「走らなくてよかった」のどちらも命を大事にしているんですね。これらの命に何か違いはありますか。
 - ・おじいちゃんの命は自分で救うことはできないけど、事故に遭った人の命は、自分がきまりを守ることで救うことができる。
- では、きまりは何のためにあると思いますか。
 - ・人の命を守るためにある。
- きまりは人の命を守っているんですね。では、きまりが人の命を守るためには人はどうすればよいのでしょうか。
 - ・人はきまりを守らなければいけない。



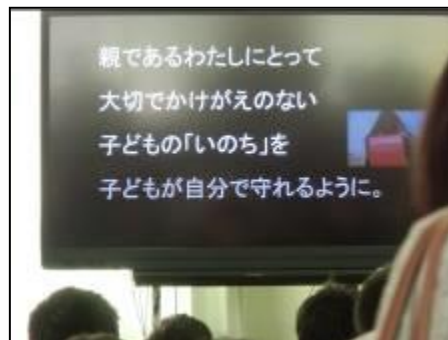
○今日の学習で学んだこととこれからの自分について書いてみましょう。

[児童のワークシートより]

- ・きまりを守ることで自分の命も他の人の命も守ることができることが分かった。今のうちから、しっかりときまりを守って行動したいと思った。
- ・ヘルメットをかぶって自転車に乗るというきまりも転んだときに命を守ってくれるから、きまりを守った方がいいと思った。

- 隣の友達と話してみましょう。
- この時間で隣の友達の考えで心に残ったことを「心の種」に書きましょう。

○あるお母さんのメッセージを読んでください。



6 授業の振り返り

○視点Ⅰ「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させることができたか」について

- ・おじいちゃんに会うために路側帯を走るべきだったかどうか自分の考えを明確にさせ、意見を交流させることで、自分自身の判断の根拠は何か、また友達は何を根拠に判断しているのか捉えることができたと考えます。
- ・「きまりはどんな状況でも守るべきなのか」「きまりを守ることにはどんな意味があるのか」ということを規則尊重や生命の尊さ、家族愛など様々な視点からきまりの意義について深く考える姿が見られました。
- ・きまりを破ることでどうなるか、きまりを守ることでどうなるか、それぞれの状況に応じて起こり得ることを考えることで「きまりの大切さ」を見つめ直すことができたと考えます。

○視点Ⅱ「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めることができたか」について

- ・導入において「心の学び記録」に記述していた内容を振り返ることで、きまりを守らなければならないことは分かっている、誰しもつい破ってしまう心の弱さがあることに共感することができたと考えます。
- ・もし自分が同じような状況だったら何を大切に思い、どう行動するのか考えて記述したり、発言したりする姿が見られました。
- ・きまりが何のためにあるのかをワークシートに記述することができ、学んだ道徳的価値を基に、これから自分はどのように行動していきたいのか考えを記述し、その内容を互いに伝え合うことができたと考えます。